



Daiwa House®
Group

報道関係各位

N e w s L e t t e r

2017年3月1日

大和ハウス工業株式会社
代表取締役社長 大野直竹
大阪市北区梅田 3-3-5

当社の「ZET（ネット・ゼロ・エネルギー・タウン）の普及・拡大」の 取り組みが第26回「地球環境大賞」の「国土交通大臣賞」を受賞

大和ハウス工業株式会社（本社：大阪市、社長：大野直竹）は、フジサンケイグループが主催する第26回「地球環境大賞」において、「ZET※1の普及・拡大」の取り組みが評価され、「国土交通大臣賞」を受賞しました。

なお、当社は2009年の「大賞」、2014年の「フジサンケイグループ賞」受賞に続き、3度目の受賞となります。

※1. ネット・ゼロ・エネルギータウンのこと。エネルギー消費が正味（ネット）でゼロまたは概ねゼロとなる街。



【街の南側斜面に太陽光発電所（100kW）を設置し、ZETを実現した「スマ・エコ タウン陽だまりの丘」】

●地球環境大賞について

「地球環境大賞」（後援：経済産業省、環境省、文部科学省、国土交通省、農林水産省、日本経済団体連合会）は1992年、「産業の発展と地球環境との共生」をめざし、産業界を対象とする顕彰制度として、公益財団法人世界自然保護基金（WWF）ジャパン（名誉総裁・秋篠宮殿下）の特別協力を得て創設されました。本制度は地球温暖化防止や循環型社会の実現に寄与する新技術・新製品の開発、境保全活動・事業の促進や21世紀の社会システムの探究、地球環境に対する保全意識の一段の向上を目的としています。

なお、授賞式は、2017年4月10日（月）元赤坂の明治記念館において執り行われる予定です。

●受賞のポイント

日本初のZET「スマ・エコ タウン晴美台」から“進化したZET”の普及・拡大の取り組み

1. ZET実現のための新技術・新スキームによる街づくりコストの削減
2. 街のエネルギーを起点とする新たな価値提案
3. 「まちづくりVision（ビジョン）」に基づくサステナブルな街づくり

●日本初の ZET「スマ・エコ タウン晴美台」から進化した ZET の普及・拡大の取り組み

当社が 2013 年 6 月にまちびらきした日本初の ZET「スマ・エコ タウン晴美台」（大阪府堺市）は、65 区画全住戸に当社オリジナルのエネルギーマネジメントシステム D-HEMS II（ディー・ヘムスツー）、太陽光発電システム、エリーパワー社製の家庭用リチウムイオン蓄電池（6.2kW）を搭載。あわせて、街の共用部となる集会場の屋根や地下式の調整池上にも太陽光発電システムを設置し、街全体でエネルギーの見える化を行うことで、日本初の ZET を実現しました。

当社では、この ZET をさらに進化させるために、「スマ・エコ タウン晴美台」にお住まいのオーナー様の協力を得て、各住戸ならびに街全体のエネルギー使用状況の分析と街づくりの課題解決に取り組み、「進化した ZET」の普及・拡大を目指しています。

1. ZET 実現のための新技術・新スキームによる街づくりコストの削減

「スマ・エコ タウン晴美台」では、国や自治体の支援を得て、ZET を実現しましたが、それ以降の ZET「スマ・エコ タウン陽だまりの丘」（三重県桑名市）、「セキュレア豊田柿本」（愛知県豊田市）、「(仮称)セキュレア豊田本町スマ・エコ プロジェクト」（富山県富山市）では、当社の新技術や新スキームの採用により、街づくりコストを削減。公的補助金にほとんど頼らない ZET を実現しました。

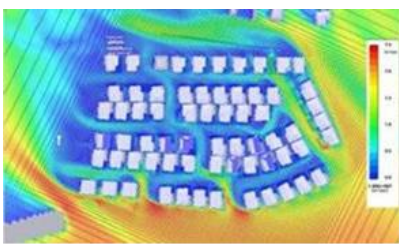
(1) 独自技術の採用による住宅の省エネ化と創エネ設備の削減

当社の ZET は、エアコンなどの空調機になるべく頼らず、自然エネルギーを上手に利用できるパッシブデザイン※2 を積極的に採用しています。また、建物自体の断熱性を高めるため、寒冷地域用の「エクストラ断熱仕様」※3、「高断熱樹脂サッシ」や自然の力で空調エネルギー消費を軽減できるハイブリッド排熱システム「涼ナビ」などを最適な組み合わせで採用することで、冷暖房エネルギー使用量を削減し住宅の大幅な省エネ化を進めました。

その結果、ZET 実現に要する創エネルギー設備を削減し、街づくりのコストの削減を図ることができました。

※2.自然エネルギーを最大限利用した建築デザインのこと。

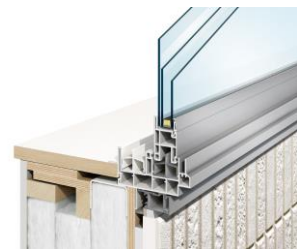
※3.当社独自の外壁「外張り断熱通気外壁」の通常仕様に、高性能グラスウールをさらに追加した超高断熱仕様。



【パッシブデザイン設計】
（街の風向シミュレーション）



【エクストラ断熱仕様】



【高断熱樹脂サッシ】

(2) 無電柱化の新スキーム採用

当社が進める ZET では、景観向上と防災を兼ね備えた無電柱化を推進していますが、無電柱化には電柱の変圧器設置や電線・ケーブル管路の埋設など、多額の費用が発生します。

そこで当社は、電柱設置を必要最小限に抑え、地上置き変圧器を無くすなど、街の景観配慮とコスト抑制を両立させた新たな無電柱化のスキームを「スマ・エコ タウン陽だまりの丘」で採用し、大幅なコスト削減に成功しました。

2. 街のエネルギーを起点とする新たな価値提案

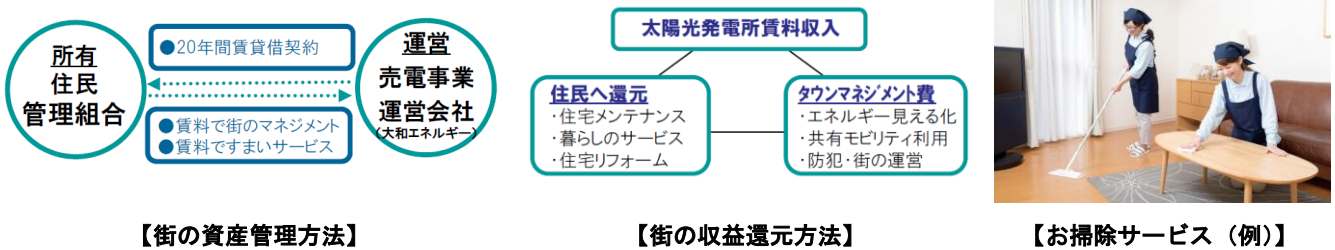
当社は“進化した ZET”を実現するため、「収益を生む街」の仕組みを構築しなければならないと考え、街の太陽光発電所や電力融通、ネガワット※4 取引など、多様な収益手段の拡大を図ることで、街の新たな価値を提案しています。

※4.節電に余剰となった電力を、発電したことと同等とみなすこと。

(1) 新たなタウンマネジメントの取り組み

当社は、ZET を広く社会に普及させるためには、エネルギーだけでなく、新しいサービスなど「街の新たな魅力」が必要であると考え、街（住民）が資産保有・管理・運用する仕組みを新たに構築しました。

「スマ・エコ タウン陽だまりの丘」では、住民による管理組合が所有する、太陽光発電所を当社グループへ賃借することで、街が賃料収入を得る仕組みを構築。その収益は、タウンマネジメント費や住民の暮らしのサービス（お掃除サービス等）費などに利用できるようにしました。

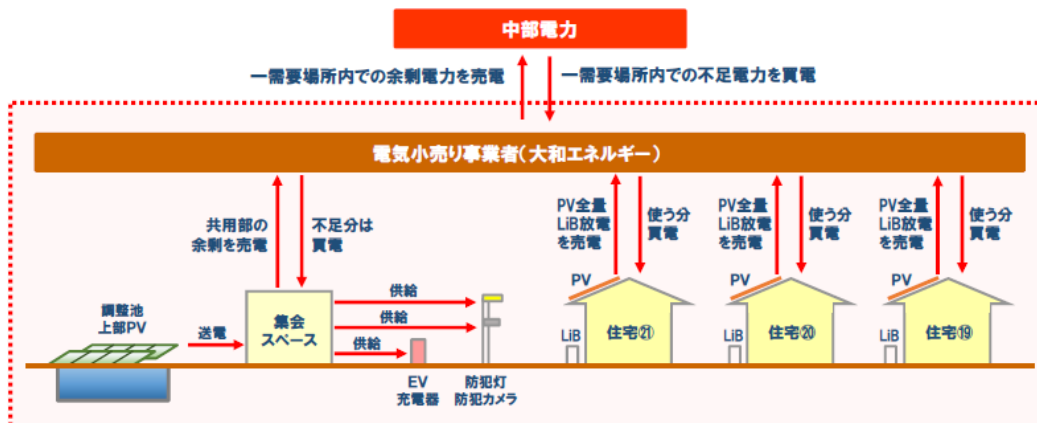


(2) 街の収益を拡大させる手段

「セキュレア豊田柿本」では、特定の住戸（3戸）と集会所を一つと考え、その中で「電力融通」や「蓄電池の連携制御」等によるデマンド抑制を行っています。

この仕組みは、電力会社から大和ハウスグループの大和エネルギーが受電を行い、特定の住戸（3戸）と集会所へ電力を供給します。一方、特定の住戸（3戸）の太陽光発電システムで発電した電力は、大和エネルギーが全量を買取ります。また、特定の住戸（3戸）の蓄電池と集会所の蓄電池を連携させ、デマンド（最大需要電力）を抑制することで一括して電力会社へ売電する「ネガワット」を生み出す仕組みを構築しました。

今後は、複数のナノグリッドが連携したネガワット取引を目指すとともに、街の商業施設と連携してクールシェアによるデマンド抑制やエネルギーマネジメントシステムを活用した広告事業などを行い、新たな街の収益拡大を図ります。



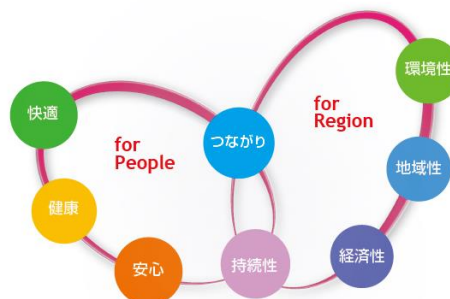
【電力融通のイメージ図】

3. 「まちづくり Vision」に基づくサステナブルな街づくり

大和ハウスグループは、2015年10月に「まちづくり Vision『まちの価値を、未来へ』」を策定。「人とひと」「人と地域」がつながり、さらに未来へ続いていく街づくりを実現させるため、8つの価値（私たちの想い）を8HEARTSとして決めました。これからも8つの想い（ハート）を一つに、グループ連携してサステナブルな街づくりを進めていきます。




【まちづくりビジョンを構成する3つの階層】



【8つの想い（ハート）】

以 上



私たちは、“未来を見据えた自主的な環境行動によって、常に社会をリードし、現在と未来をつないでいきたい”との思いのもと、すべての企業活動を通じて、地球温暖化防止や資源循環などの環境活動に取り組んでまいります。

お問い合わせ先		
広報企画室	広報グループ	06 (6342) 1381
	東京広報グループ	03 (5214) 2112



【セキュレア豊田柿本】